



# 富山産ホタルイカ漁、過去最低



富山県水産研究所によると、6月までの水揚げ量は好漁だった昨年度（2101トン）から一転、過去最低だった2019年の437トンを下回る見通しとなっています。今年は3月より定置網漁が本格化し、低調にスタート。4月に状況が好転する兆しが見えたものの、その後も不漁が続きました。日本海全体のホタルイカ資源量が大きく減っているわけではなく、富山湾内への来遊量が減っているのが原因だそうです。漁期前に富山湾沖合の水温が高かったため、阻まれる形でホタルイカが沿岸に入って来られなかったのではないかと考えています。

# 水産養殖業が懸念。ペルーイワシ禁漁の影響。

水産養殖ではエサとして欠かせない、「カタクチイワシ」。その主要生産国のペルーが禁漁を決定しました。未成熟の稚魚が多く、今、操業すると「資源の略奪」になるとの判断からで、この状況に日本国内の養殖現場には懸念が広がっています。昨年来、諸コストの高騰に追い打ちをかけるように飼料費も上がっては、かなりのダメージとなるのは必至。需要期の年末に向けた給餌ができないと本来仕上げる魚体、サイズに仕上がらない可能性もあります。



# 入荷状況

## 7、8月の主な魚

魚種
★マグロ
トビウオ
★タチウオ
岩カキ
★サザエ
★コゾクラ(ブリの幼魚)
スルメ、アカイカ
★カマス



### 7月から8月一杯は底引き網が禁漁



となり、刺し網や定置網主体の入荷になります。

●メジ 全国各地から入荷。有名なのは山陰の巻き網漁ですが、この時期は石川、富山で定置網で漁獲されます。

●トビウオ 刺身、フライなどに。

●コゾクラ 地物は遅れて入荷の見込みです。煮付けやフライなど。

●タチウオ これから本格的に入荷が見込まれます。刺身、焼き物、煮付けに。

●カキ、アワビ、サザエ等 珠洲方面の海女取りが本格化し入荷も潤沢にありそうです。

●アカイカ、スルメイカ 赤イカは九州方面。地物は少ないです。スルメイカは潤沢入荷。

●商品価格等は各担当者にお問い合わせください。